

那覇市GIGAスクール構想（一部抜粋）

※ GIGA スクール構想・・・多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現させる。

那覇市のめざす子どもの姿

『情報を効果的に活用し、自分の考えを形成できる子』

具体的には、学習活動において必要に応じてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得たり整理・比較したり、得られた情報をわかりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりといったことができる子どもの姿である。

学習場面におけるタブレット端末の活用について

ICT を効果的に活用した学習場面は、「一斉指導による学び（一斉学習）」、「子供たち一人一人の能力や特性に応じた学び（個別学習）」、「子供たち同士が教え合い学び合う協働的な学び（協働学習）」の3つの分類例に分けることができる。

学校におけるICTを活用した学習場面

各教科等の指導でICTを活用することは、子供たちの学習への興味・関心を高め、分かりやすい授業や「主体的・対話的で深い学び」の実現や、個に応じた指導の充実に資するもの。

A 一斉学習	B 個別学習		C 協働学習	
<p>挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。</p>	<p>デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進捗で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。</p>		<p>タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学习において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。</p>	
<p>A1 教員による教材の提示</p>  <p>画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用</p>	<p>B1 個に応じる学習</p>  <p>一人一人の習熟の程度等に応じた学習</p>	<p>B2 調査活動</p>  <p>インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p>	<p>C1 発表や話し合い</p>  <p>グループや学級全体での発表・話し合い</p>	<p>C2 協働での意見整理</p>  <p>複数の意見・考えを議論して整理</p>
<p>B3 思考を深める学習</p>  <p>シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p>	<p>B4 表現・制作</p>  <p>マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p>	<p>B5 家庭学習</p>  <p>情報端末の持ち帰りによる家庭学習</p>	<p>C3 協働制作</p>  <p>グループでの分担、協働による作品の制作</p>	<p>C4 学校の壁を越えた学習</p>  <p>遠隔地や海外の学校等との交流授業</p>

※「学びのイノベーション事業」実践研究報告書（平成26年）より

(1) **一斉学習**

電子黒板やタブレット端末に画像、音声、動画などを拡大表示したり、文字を書き込みながら掲示したりすることにより、学習課題等を効果的に提示・説明することができる。

(2) **個別学習**

a 個に応じる学習

一人一人の特性や習熟の程度などに応じて、個に応じた学習を実施することができる。個々の特性に応じて学習者用デジタル教科書（QRコードの活用）や、習熟の程度や誤答傾向に応じた学習者向けのドリル教材（デジタル教材）を用いることにより、各自のペースで理解しながら個に応じた学習を進めることができる。

b 調査活動

直接観察した内容やインターネットやデジタル教材を用いた情報収集、観察における写真や動画等による記録など、学習課題に関する調査を行うことができる。端末等を用いて写真・動画等の詳細な観察情報を収集・記録・保存することで、細かな観察情報による新たな気づきにつなげることができる。また、インターネットを活用することで、気づいたことや疑問に思ったことを自分の課題に応じて調べることができる。

c 表現・制作

写真、音声、動画等のマルチメディアを用いて多様な表現を取り入れた資料・作品を制作することができる。

(3) **協働学習**

a 発表や話し合い

学習課題に対する自分の考えを、電子黒板の書き込み機能を用いて、グループや学級全体に分かりやすく提示して、発表・話し合いを行うことができる。

b 協働での意見整理

端末等を用いてグループ内で複数の意見・考えを共有し、話し合いを通じて思考を深めながら協働で意見整理を行うことができる。

※上記にて、ICT を活用した学習方法・活動等を紹介していますが、ICT の活用の目的は、各教科の学習目標を達成するために教師や児童が ICT を活用することであり、ICT を活用することが目的にならないようにすることが大切だといわれています。（常時 ICT を活用した学習を行うわけではありません。）

(端末充電庫)



この中に子どもたちの端末を入れます。
結構大きいです。一人一台与えられます。
先日、児童用PCが届きました。次年度か
らは使える状態に整備していきます。